

怖くても、進む理由

役割がない葛藤から「私にしかできない仕事」を見つけ出すまでの8ヶ月の軌跡



登場人物：小宮山さとみ（フォトグラファー）× 浪越あゆみ（言葉と感情の専門家）

舞台：日本最高峰のビジネス講座「BMCマスターコース」オーストラリア・ゴールドコースト合宿

10倍の壁を越えた先に待っていた「未知の領域」

倍率**10倍超**

「プロのスタッフ」は一人もいない。
参加者の中から選抜された9名の運営チーム。
高い志と覚悟を持って手を挙げたはずが、
ここから想定外の感情の波に飲み込まれていく。



9名の運営スタッフ

8月
(キックオフ)

11月
(カジノ企画)

2月
(ゴールドコースト合宿)

完璧な裏方に隠された「インポスター症候群」の正体

見せていた顔

- 冷静な対応
- カジノ企画のルール整備
- 完璧なミーティング参加

隠していた本音

「感じていない気がする…」

「何も役に立てて
いない気がする…」

「選んでもらったのに、
期待に応えられていない」

「私よりふさわしい人がいる。
辞退したほうがいいのでは…」

専門家として実績がある人ほど、
役割を見失った時の「無力感」は深く、重い。

プロフェッショナルが自信を失うメカニズム

	普段の私	運営スタッフの私
役割	明確に定義されている (研修講師)	自分で見つけるまで 「存在しない」
装備	15年の経験という 「武器」と「鎧」がある	完全に丸腰。 過去の延長線上にない挑戦
心理状態	自分の土俵でコントロール可能 (有能感)	答えが見えない恐怖と 圧倒的な無力感

「与えられた役割」に依存していると、環境が変わった瞬間に自分の価値が分からなくなる。

「指示を待つこと」がもたらす最大の苦痛

「カジノ合宿の準備中、自分が情けなくて、
運転中の車の中で涙が止まらなくなった。
LINEの通知を見るのすら辛かった。」

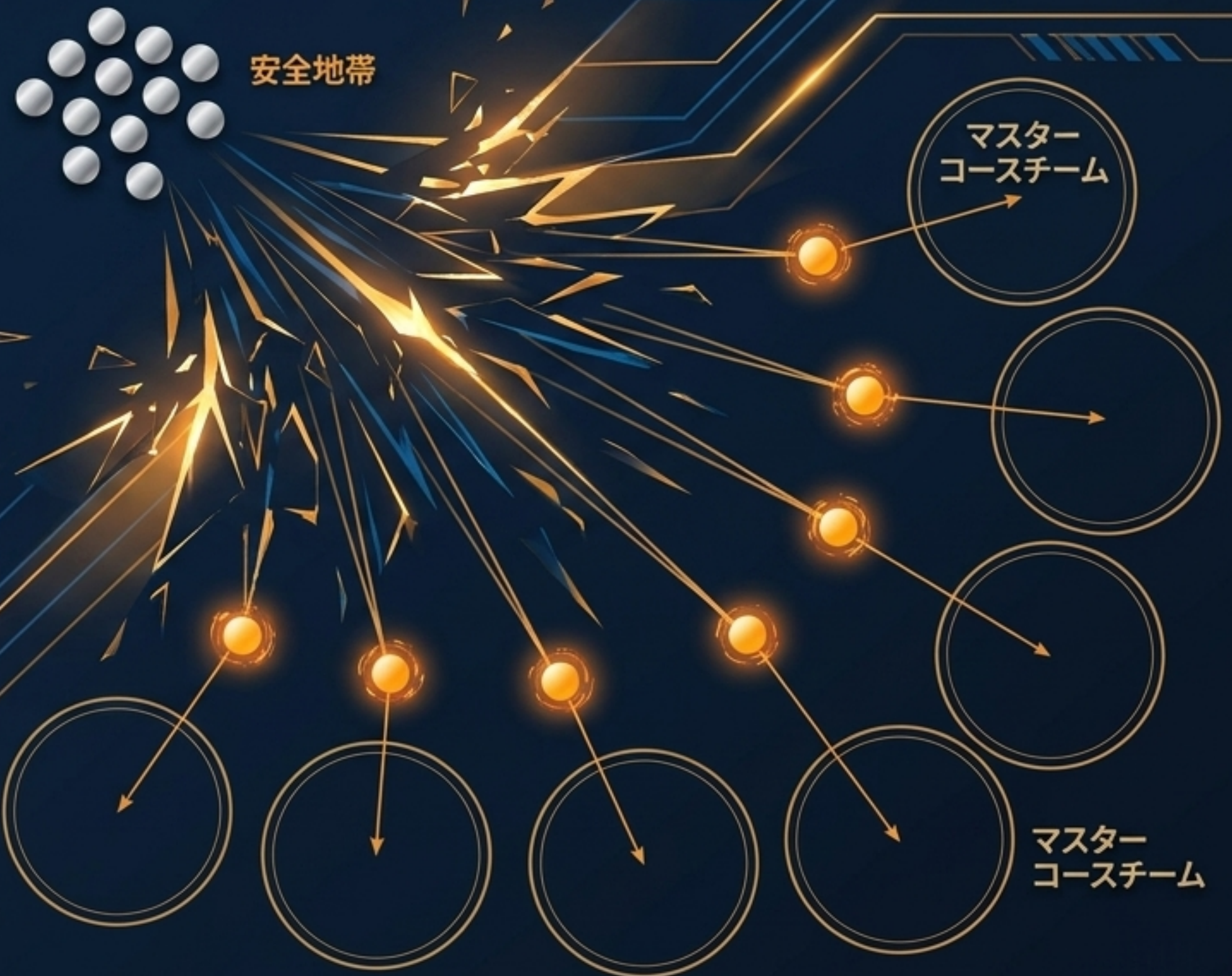
彼女を苦しめたのは「仕事の量」ではない。
「自分の存在意義（役割）が見出せないこと」
そのものが、人を最も疲弊させる。

転換点：逃げ場のない「個の分断」


2月のゴールドコースト合宿・2日目。星先生による戦略的アサインメント。

9人のチームから切り離され、1人で受講生チームに帯同することに。

「私の自信のなさを隠す場所
はもうない。私が彼らを
ゴールさせるしかない。」



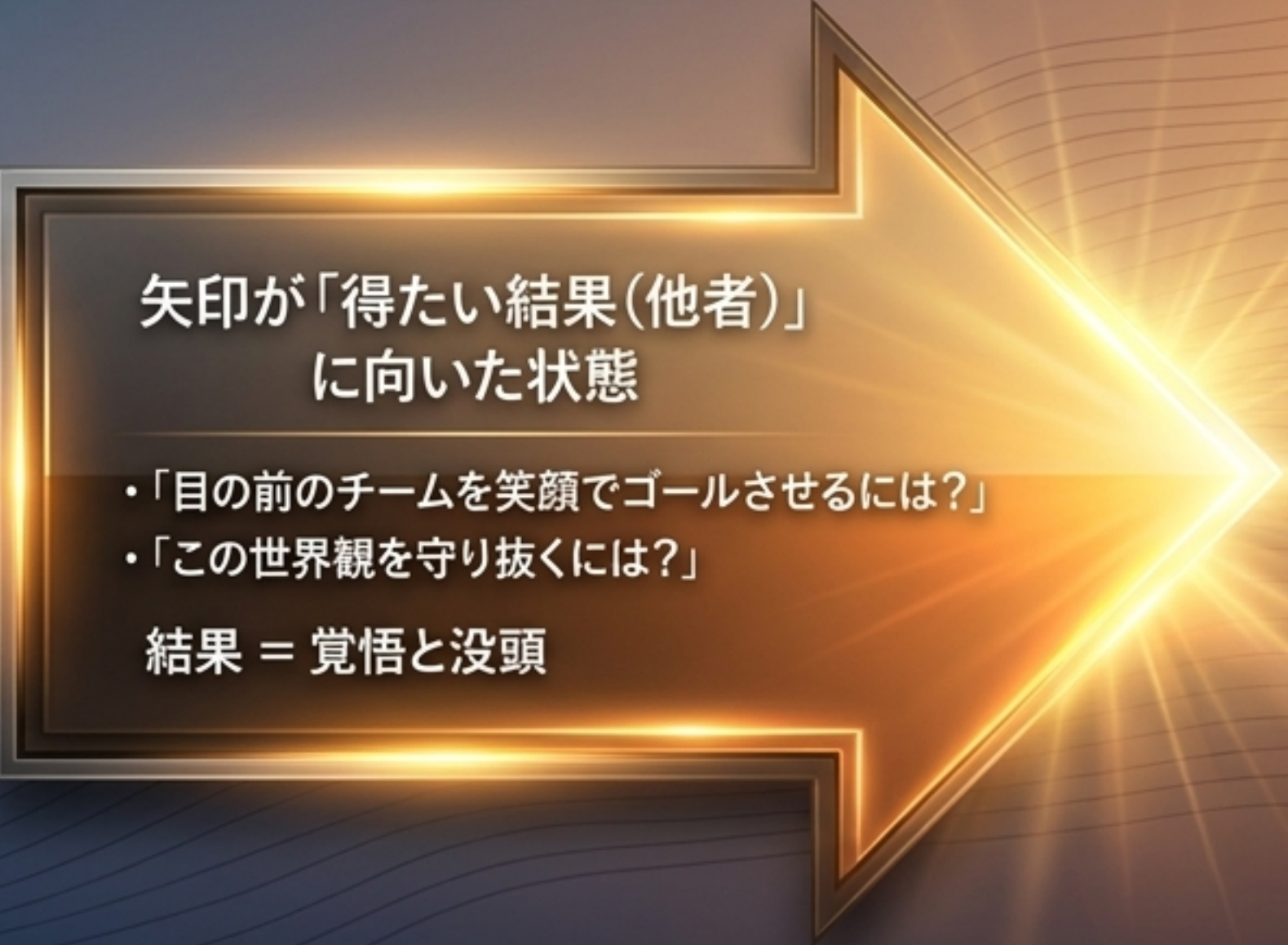
視点の矢印が反転した瞬間、スイッチが入る



矢印が「自分」に
向いている状態

- ・「私は役に立っているか？」
- ・「私はどう見られているか？」

結果 = 恐怖と情けなさ



矢印が「得たい結果(他者)」
に向いた状態

- ・「目の前のチームを笑顔でゴールさせるには？」
- ・「この世界観を守り抜くには？」

結果 = 覚悟と没頭

目的（得たい結果）に意識を向けた瞬間、エゴと恐怖は消え去る。

「私にしかできない」がもたらす圧倒的な有能感

動画撮影という使命の発見。
顔を真っ赤にして走り回り、
熱中症になりかけながらも
シャッターを切り続けた時間。

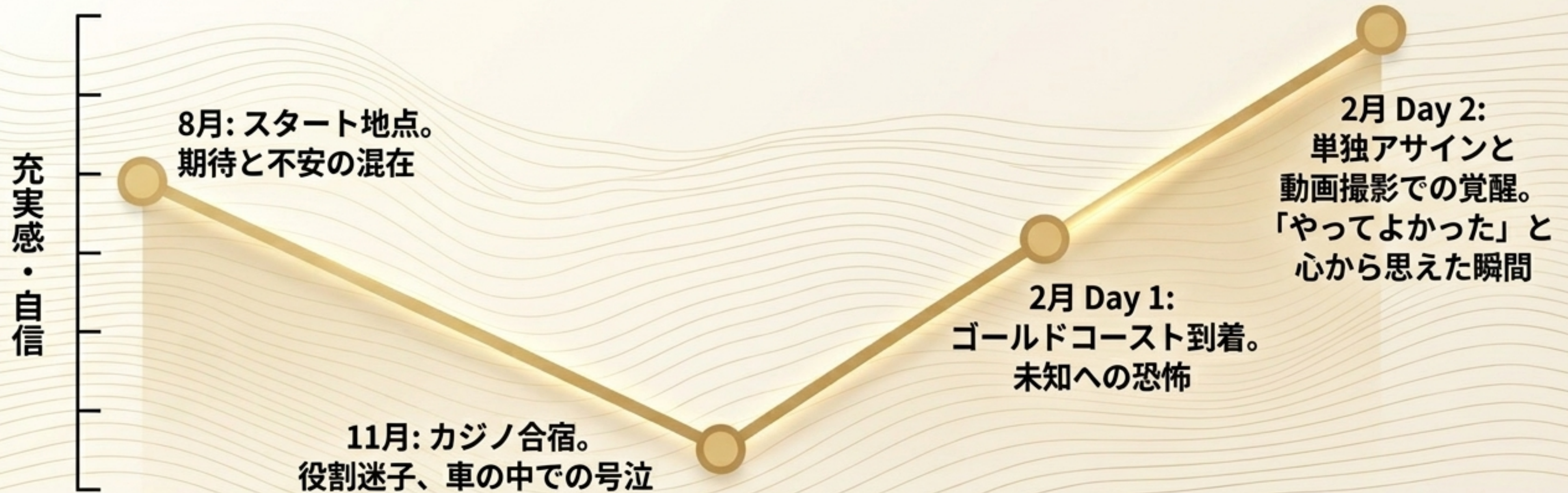
「かなさんたちの、この瞬間の
動画を撮れるのは、今ここに
いる私しかいない。
その時、初めて圧倒的な充足感
に包まれた。」

チームが
求めている記録

誰も手が
回らない余白

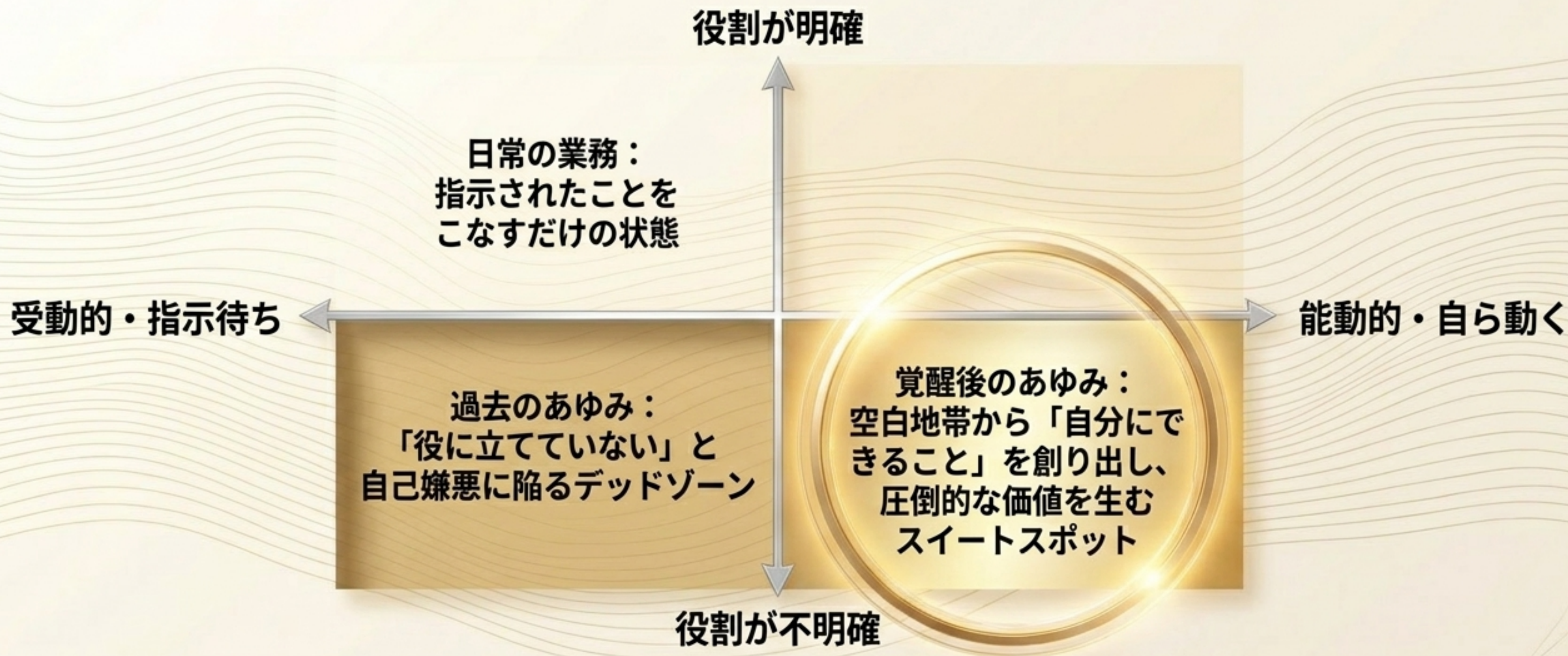
その瞬間に
立ち会っている
自分

8ヶ月間の感情と役割の軌跡



どん底の感情から逃げずにその場に留まり続けたからこそ、
最後の急上昇（ブレイクスルー）が生まれた。

挑戦者のマトリクス：あなたは待つか、自ら創るか？



最高の充足感は、誰かに与えられた役割の中にはない。

過去の自分へ、そして新しい挑戦に向かうあなたへ

甘えんな。

誰かが役割を与えてくれる、助けてくれると思うな。

自分で見つける。

価値は待っていても降ってこない。自らの行動で創り出すものだ。

逃げんなよ。

苦しくても、自分の意志で飛び込んだのなら、やり遂げた者にしか見えない景色を見に行け。

次の未開の地へ踏み出すために

あなたの本当の力は、過去の延長線上にはない。
「できないかもしれない」という恐怖の先にこそ、
まだ見ぬ自分の能力が眠っている。

「出会った人の心を奪うストーリー構築術」

主催：小宮山さとみ

日程：6月9日・6月10日（2日間限定セミナー）

共感を生み、人を惹きつける「言葉と発信」の力を手に入れ、
あなた自身の新しい役割を創り出しませんか？
専用ルームでお待ちしています。